

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立大川樟風高等学校 全日制

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	地域全体を学びの場とした教育活動とおして「人や地域とつながり、未来を自ら創造できる力」を育成し、「志学 創造 貢献」の校訓のもと、何事にも全力で取り組み、地域を支える有能な人材を育成し、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを目指す		A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一致団結のもと創立20周年記念事業を実施して、本校の伝統や文化について改めて認識するとともに新たなスタートを切ることができた。 大川市内の小学校、中学校、大学との校種間連携に取組んだ。特に県内初となる連携型中・高一貫教育について県教育委員会からの正式発表と令和5年度からの本格実施に向けた基礎を築くことができた。 新型コロナウイルス感染症防止の対策を取りながら予定した行事を実施した。また、多様な進路の実現や部活動、資格取得等において素晴らしい成果をあげた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を強化して、校種間連携及び連携型中・高一貫教育の発展を目指すとともに地元からの志願者を増やす。 魅力ある学校づくりとして、普通科、住環境システム科を充実させ特色ある学科、コースづくりを行う。また、部活動やボランティア活動の充実を図る。 定期考査を3回に変更して新教育課程と3観点による評価「知識・技能」「思考・判断・表現力」に主体的に学習に取り組む態度」に取組む。 全生徒の学習時間を設定して、積極的に学習支援アプリを活用しながら確かな学力の定着向上を目指す。 キャリアパスポートを活用した系統的なキャリア教育の充実と進路について最新の情報提供を行う。 	1 魅力ある学校づくりと校種間連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学科・コースの特色ある活動の実施 生徒会を中心とした学校行事や部活動の活性化 		<ul style="list-style-type: none"> 連携型中・高一貫教育の発展と校種間連携の推進 ボランティアとして地域行事や活動への積極的な参加
	2 安全で安心な教育活動とおした自分磨き	<ul style="list-style-type: none"> いじめや差別のない環境づくりと人権教育の徹底 「立ち止まり一礼」運動による礼節指導の徹底 資格取得と検定の合格率向上 		<ul style="list-style-type: none"> 安全安心に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 社会人としてのマナーの育成と規範意識の醸成
	3 ICT教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領における一人一台端末の有効活用 ICT機器を活用した授業実践に対するスキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫・改善 学習支援アプリの活用法の定着 	
	4 キャリア教育の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が基礎学力定着向上に向けた学習支援アプリの積極的活用 進路の手引きを活用した積極的な進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> 段階を越えたキャリア教育の推進(キャリアパスポート) 職場体験活動(実習)やインターンシップの充実 	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務	ICTの積極的な利用を図りつつ主体的・対話的で深い学びを推進し、授業改善や、基礎学力の定着と発展的な学習につながる知識の理解、技能の習得を目指す。	電子黒板、クロムブックを効率的に活用して、生徒の主体性を喚起し、協働学習の活性化や深い学びへと繋げる。	A	<p>各教科の授業や総合的な探究の時間の学習内容等を、家庭においてICT機器を用いて学習を振り返ることのできる環境へと整備する。そのためにクロムブックの家庭への持ち帰りを促進するとともに、その環境を整備する。また、学校においてスタディーサプリの活用を促進する。ブラッシュアップ20での活用状況は良好である。授業時においてもその活用を促進したい。新課程では観点別評価が導入され、各観点の評価が細かく行われている。スタディーサプリの確認テストやチェックテスト機能を用いて、授業時における単元テストや小テストの評価改善に努めていきたい。</p> <p>HR教室における荷物の整理整頓やクロムブックの管理、施設等の状況等が不十分であり、問題である。注意喚起を促したい。遅刻や欠席が多い生徒には、三者面談に教務が入り、履修や修得および進級の規定を確認したり、校内の推薦基準の説明を行ったりしながら保護者の理解・協力が得られるように努めている。成績不振者に対しては、成績保護者会を実施し、考査前の補講を教科の先生方にていただき、授業および考査への取組の改善に努めている。</p> <p>観点別評価の充実については、考査問題において観点別評価がより明確に行えるよう教務で説明を分かりやすいものにした。年間指導計画や教務規定の改定については、改善点や修正点があり次年度当初の改定に努める。</p> <p>教務関連の追加書類の作成を行った。また、教務の業務分担については月に一度の連絡会を開き分担を明確にし、業務のスリム化に努めた。</p>
		スタディーサプリの活用の仕方について、キャリア教育課と連携しつつ授業の充実にも努める。	A	
		各コースに応じた専門性の高い指導を行い、進路実現に向けた基礎学力を養成する。	A	
	授業規律の徹底を図りつつ、主体的な学びを心掛け、きめ細かな指導を心掛けることで全生徒のすべての教科における履修と修得を目指す。	教室整理や授業開始時の着席指導を徹底する。	B	
		遅刻・欠席が多い生徒に対しては、学年・生徒指導課と連携し、対象生徒及びその保護者にきめ細かい指導を行う。	A	
		成績不振者への事後指導と共に、考査前の事前指導についても学年教務を中心に強化する。	A	
	新教育課程と進路実現の結びつきのある授業計画・実施・検討と、観点別評価の効果的な運用の検討を行う。	観点別評価を充実させ、生徒個々の目的の明確化や教員の指導力向上へと繋げる。	A	
		各コースに応じた観点別評価にあわせて、年間授業指導計画・教務規定を改定する。	A	
		出席統計などの統合型校務支援システムの円滑な運用に努める。	A	
	教務関連書類の内容や様式、手続き等について見直しを行い、効率的な教育環境と業務のスリム化の実現を目指す。	出席統計などの統合型校務支援システムの円滑な運用に努める。	A	
教務関連の業務分担を見直し業務のスリム化を目指す。		B		
企画調整	他分掌との連携	他分掌と連携して、学校行事における企画補助を行う。具体的には、図面作成や掲示物等の作成・管理を行う。	A	<p>学校内の活動全般において各分掌間の調整役として、情報収集や情報伝達などはできていた。また、PTAとの連携もスポーツ交流会など行うことができた。また、今年は体育祭や文化祭が一般公開で行われ、学校と地域とを結びつける試みが少しずつ回復しつつある。大川市内の学校間連携を進め、地域に根ざした高校となるよう、来年度はもっと活発に情報を発信していきたい。</p>
	行事予定作成のための的確な情報収集	教務課・生徒指導課・キャリア教育課をはじめ、各部署と連携し、正確な日程・情報を収集し、月ごとの行事・授業予定表を、余裕をもって配布する。また、各学期における式典の企画の中で各学年との調整を行う。	A	
	PTAとの連携	PTAとの連携を深め、本校の支援体制を充実させる。具体的には、マラソン大会での炊き出しや、PTA新聞「くすのき」の発行等を行う。	A	
生徒指導	生徒募集部やキャリア育成部等との連携を図り、進路実現を根拠に置いた指導を徹底する。立止り一礼挨拶を深化させる。(相手を思いやった挨拶、心のこもった挨拶を目指す。)校内外における身なり指導とコミュニケーション能力の向上を目指した指導を全職員で行う。主体的に交通マナーの向上を図り、自他の生命の尊重ができる態度の育成を図る。	職員への進路実現を根拠に置いた生徒指導意識の共有をキャリア育成部などとの連携を密にし、進路実績を中学生へのアピールポイントとして活用できるようにする。	A	<p>各分掌と連携を図り、進路実現に向けた生徒指導を実践することができた。ただし、もっと組織的に効率よく指導体制が構築できたのではないかと考える。来年度に向けてさらなる挨拶の充実とコミュニケーション能力の育成を図ることが重要である。</p> <p>体育大会や文化祭、ボランティア活動等の生徒の主体的な学校行事等を通して、保護者や地域の方々に学校を知っていただく機会を作れた。来年度はさらなる外部への本校の良さを知っていただく機会を作りたい。</p> <p>中学校との連携事業は、少しずつであるが増やしていくことができている。また、生徒の主体的な取り組みができるような場面づくりもできている。来年度に向け、部活動のさらなる活性化と校則の見直しなどを中心とした生徒の主体性を尊重した学校づくりを行ってみたい。</p>
		コミュニケーション能力の向上を目指し、相手に応じて敬語を正しく使う指導を徹底する。権あつぶ運動を効果的に活用し、全職員での生徒指導を展開する。	B	
		挨拶の意義を様々な学校生活の場面で理解させ、職員の率先垂範を行うことで生徒の自発的な挨拶をさらに充実させていく。	A	
		交通安全教室などを学期に1度以上実施し、生徒会活動などから生徒たちの主体的な呼びかけを行わせるよう指導していく。	A	
	生徒主体型の学校行事を充実させ、樟風の特色や生徒の良さを地域に明確にアピールできるものを全生徒・職員の協力のもと創り出す。	学校行事や部活動などの活動を、生徒会などを中心とした生徒主導で実施させる機会を増やし、Upias権を積極的に活用して自己肯定感を高めていく。	A	
		生徒と職員、保護者での校則の見直しを継続的に図っていく。HPやインスタグラムを活用し、学校のよいPRの場面となるよう更なる充実を図る。	B	
		地域との連携を積極的に図っていく、学校行事や地域のイベントなどを協働して行うような機会を増やす。	A	
	生徒主導による各部活動の推進や生徒会を中核とした各種委員会などを活性化し、主体的で活気ある活動を展開し、生徒募集部との連携を図り広報活動を積極的に実施する。	毎月の活動計画を作成することにより、毎日の部活動を生徒が自主的・自発的に取り組むことができるように指導していく。	A	
		中高連携を活用し、学期に1回中学校などとの部活動の合同練習などを行っていく。	A	
		生徒会・各種委員会・部活動の活性化を図るための検討委員会を作り、生徒募集部と連携を図り生徒目線からの校外へのアピール活動を検討し実施していく。	C	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見
A	<p>学力向上や分ける授業について説明をいただいたが、業者テストや校内評価など、どういったもので見取っているか教えてほしい。</p> <p>今年度から連携型中高一貫教育が始まった。中学生が樟風高校に行きたい、楽しみたいと思うような学校にしたい。是非中高連携を成功させてほしい。</p>
A	<p>PTAが学校を支援できる場を設定してもらい、学校とともに生徒を育ていく機会を増やしてもらいたい。</p>
A	<p>学校の印象について、大川樟風高校の質がよくなったと感じている。子どもたちの様子がよくわかり、質の向上がみられる。</p> <p>学校の魅力づくりの一つとして、高校でのクラブ活動の強化はできないか。以前は弁論部が活躍していたが、今はその話が聞こえてこない。是非とも活躍できるようにしてほしい。</p>

保健指導	学校全体の活動を通じて美化活動に積極的に取り組み、生徒の環境美化に対する意識の向上を図る。	美化意識の低下が、感染症拡大にもつながる恐れがあることを理解させ、校内外の美化活動の徹底を図る。	A	A	心身ともにバランスの取れた生徒の育成を目指し、心と身体の健康に留意した生活習慣の確立や健康管理能力の向上を図ってきたい。また、昨年度同様、コロナウイルス感染症やインフルエンザの拡大防止に向けた、マスクの着用や手指の消毒、換気、密を避ける行動等を促してきたい。環境美化についても、日々の清掃活動や大掃除、校外における道守活動等を通じて、意識の向上を図りたい。保健室の利用も落ち着いてはいるが、教育相談活動を積極的にこに行いつつ、職員や保護者との連携を深め、問題の未然解決と早期発見に努めたい。	A	カウンセリング等の充実を図ってもらい、生徒が安心した高校生活が送れるよう、心のケアをお願いしたい。					
	心身ともにバランスの取れた生徒を育成するために、心と身体の健康に留意した生活習慣について指導し、健康管理能力の向上を図る。	生徒の心と身体の健康教育の充実を図ることによって、健康管理に留意させる。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗い、うがいの徹底を図る。さらに、夏季においては、熱中症予防に努めるよう、啓発を行う。	A				A	朝課外の状況について県内で実施している学校は少なくなってきたと聞いているが樟風高校での取り組みを教えてください。				
	教育相談活動の充実、様々な問題の未然防止と早期発見に努め、問題を抱えた生徒への支援、その問題の解決を図る。	生徒が抱える様々な健康問題について、各学年、担任と連携し、その未然防止と早期発見に努め、最適な支援を行い、解決を図る。	A									
キャリア教育	3年間を通した体系的なキャリア教育を推進することにより、生徒が適切な自己理解に基づいて主体的に将来を設計し、自己実現を目指す能力を育成する。	スタディサプリを活用した個別学習により、基礎学力の定着と希望進路を実現できる能力を育成する。	A	A	基礎学力の定着に向けて今年度から導入した「ブラッシュアップ20」について、成果と課題を検証する。今年度作成したプログラムについても、生徒の多様な進路希望に対応できるよう、教科・学年と連携して見直しを行う。また、生徒が自己のキャリア形成に向けて見直しを持って取り組むよう、キャリアパスポートの活用方法も引き続き検討する。	A			朝課外の状況について県内で実施している学校は少なくなってきたと聞いているが樟風高校での取り組みを教えてください。			
	有益な進路情報の収集と発信を行い、生徒が進路目標を早期に確立し、積極的にその実現を目指す姿勢を身につけさせる。	「未来への一日」やインターンシップ等の行事により、生徒の進路意識の高揚を図る。	A				A					
		ホームルーム等におけるキャリアパスポートの活用方法を検討する。	B									
	進学・就職ともに100%の実現を目標に、指導内容や手だての共有化を継続的に行うことで、学年や学科・学系と連携したキャリア教育を展開する。	『進路の手引き』を5月に発行することにより、有益な情報を発信し、学年や希望進路に応じた活用を推進する。	『進路の手引き』を5月に発行することにより、有益な情報を発信し、学年や希望進路に応じた活用を推進する。				A	A		進学における総合型選抜・学校推薦型選抜の増加など、近年の入試動向の変化や新課程入試に合わせた『進路の手引き』の改訂を行う。	A	朝課外の状況について県内で実施している学校は少なくなってきたと聞いているが樟風高校での取り組みを教えてください。
		次年度入試とともに、新課程入試に関する情報も適宜発信する。	B				A					
		外部模試等の結果の分析会を実施することにより学年や学科・学系、教科担当との共通理解を図る。	A									
多様な生徒に対応するため、学年や学科・学系と連携し、個人面談等による丁寧な指導を行う。		A										
キャリア研修	職員研修を計画的に実施するとともに、内容の充実を図る。専門研修等を案内し、多くの研修機会を活用できるようにする。	教職員の資質向上のため、年間に5回程度、本校の実態に即した職員研修を計画的に実施するとともに、専門研修等の研修機会を随時提供する。	A	A	校内研修は全定合同で年5回の実施で、次年度もいじめや自殺防止、人権教育、救急救命、ICT活用の研修会は全体で行いたい。また、基本研修の報告等がなくなるので本年度中に新たに実施する研修内容について分掌で検討したい。授業参観週間ではICTの活用や観点別評価を踏まえた授業展開の工夫など職員間で共有できた。また、中高連携の一環で中学校からの参観もあり、事前案内を早めに行い中学校の参観者を増やしたい。授業アンケートは実施者、集約者ともに手作業の部分が多すぎるので、実施方法・実施内容を変更し、PCのアンケート機能を使うようにしたい。図書館の利用促進については新着図書案内など定期的に出しているが、委員会活動などで生徒主体の取組をお願いしたい。教育実習は次年度も希望者が少ないので、教育実習の手続きについては、引き継ぎをきちんとできるように整理しておく。各教科の研修や学習プラットフォームの活用研修、リアデナントの活用など新しい研修やアップデートの必要な研修は積極的に取り組まなければならないと考えている。	A	授業アンケート等を通じ、先生方が教科の専門性だけでなく、生徒個人の人間性の成長を助長するための研修を樟風高校の先生方全員で行っていただき取り組んでほしい。					
	ICTを活用した授業やアクティブラーニングを推進するための研修会や研究授業を実施する。	各教科がICTやアクティブラーニングについて活用を図り、「授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道！」へとつながるように授業改善を推進する。また、chromebookやスタディサプリの活用を積極的に推進する。	A									
	授業アンケートや授業参観等で授業評価を行い、各教科の課題解決につなげていく。	研究授業や授業参観をとおして、授業改善や観点別評価について各教科で研修や検討を行い、評価の充実を図る。また授業アンケートを実施し、授業改善を推進する。	A									
	実習生の人間形成と教師の資質向上を目指した教育実習を実施する。また指導をとら担当者の指導力向上につなげる。	教育実習を計画的にすすめ、実習生の人間形成と教師としての資質向上につながるよう担当教員や学年で協力しながら指導する。また、教科指導をとら担当自身の指導力向上を図る。	-									
生徒募集	本校生徒の活躍や学校生活の様子の効果的な情報発信（HPやInstagramの積極的活用）	HPやInstagramを活用して、本校生徒の進路実績や資格取得状況、学校生活の様子、学校行事などを情報発信する。HPは毎月、Instagramは月に2～3回更新する。年3回の「樟風新聞」の他にも情報紙を発行する。	A	A	中学生の体験入学は、令和5年度同様の2回実施で、2回目目を文化祭と同時間開催でお願いしたい。1回目を授業体験、2回目を行事体験という形にしたい。樟風ポスターは、出身中学校ごとに生徒の写真を使って作成することを継続して行う。また、進路が決定した3年生の報告ポスターも作成する。中学校訪問は、より効果的な広報の手段となるよう、訪問先や時期について、管理職とよく検討の上、実施する。令和5年度は、生徒による訪問を一度だけ行ったが、これを継続する方向で検討する。Instagramは、R4年度44回・R5年度46回の更新であったが、今年度は73回（12/22まで）更新でき、生徒にも協力してもらえた。次年度も、広報の一手段として活用したい。	A	樟風高校の魅力やHPやSNS等を利用して、発信して欲しい。また、遠方から通学する生徒もいるようなので、広報活動の範囲を広げ、生徒募集に力を注いでほしい。					
	中学生に対する本校の特長・魅力の説明と有為な情報の提供	中学校における高校説明会や進路学習会では、本校の特長や魅力の説明の他、中学生にとって有為な情報（中学生としてやっておくべきこと、高校入試情報、高校生活とはなど）も提供していく。	A									
	在校生からの情報や生徒の諸活動を活用した生徒募集	在校生から本校の雰囲気や様子、高校生活満足度などの情報を収集し、第1回中学校訪問に活用する。在校生自身がInstagramを月1回程度投稿し、PRする。R6年2～3月に中学2年生を対象に、本校3年生の中学校訪問を行う。	B									
教育の情報化推進	ICT利活用の推進を図り、学力の向上を目指す。	ICTを活用した実践例について、校内・校外の情報を収集・発信することで、全職員に活用技術の幅を持たせる。	B	B	ICT機器の管理に関して、不具合等に早急な対応ができなかった。また、新たな機器の導入に対しても機器の登録等が遅れてしまった。今後、分掌内でICTに関連する専門的な知識を身に付けるように努め、早急な対応ができるようにしていく。キャリア研修課の協力やICTに関する研修を実施できた。今後は内容を充実させていきたい。ICT支援員より、各種アンケートの作成やICT機器の操作等で職員の業務の支援をしていただいた。今後は、より積極的に職員とICT支援員を繋ぎ、授業や業務でのICTの利活用推進に努めていく。	A	授業での情報機器の活用が今後も求められると感じている。先生方のスキルアップを行い、教育活動が推進されるよう取り組んでいただきたい。					
	職員の活用スキルの向上を図るため、ICT利活用に関する研修や支援を行う。	ICT機器や情報を活用できる職員を増やすため、学期に一度の研修を行ったり、その時々にあった、適切な情報を学校ポータルや情報ロッカーへの掲示を行い発信する。	A									
	ICT利活用のための環境を整える。	Chromebookをはじめ、各教室の電子黒板やコンピュータ室の適切な使用方法について広く周知し、不具合や破損が起こった際には円滑な情報共有につとめることで早期に復旧させ、使用可能な環境を維持できるようにする。	B									
1学年	教員・生徒間の人間関係の構築および主体性の確立	身だしなみや挨拶の励行、時間の管理を、3年後の社会人としてのあるべき姿の完成の基礎作りとして生徒自身が主体的に意識するよう指導する。	A	A	学年集會や、学年通信を通して学年団の思いを生徒に伝え、関係性を深めることに努めた。学年通信は保護者との連携においても効果的であり継続して発行したい。身だしなみについて一部、整えられない生徒がおり継続的に指導している。今後も指導の意味を論じつつ、一方で樟あっぷを用いた指導を行っている。清掃への取り組みは個人差があり、また整理整頓が苦手な生徒も多いので支援していく。養護教諭、SSW、SCとは十分な連携が図れているので今後も継続していきたい。	A	学年通信を通して、学校（1年生の様子）を連絡していただきたい。成長していく姿を保護者に知らせてもらうことが、連携の充実を図ることにつながると思っている。					
		教務課及びキャリア教育課と連携し、遅刻・欠席をしない意識と態度を育てる。	B									
		清掃活動を徹底することで、学ぶ環境、共有する環境をつくり、他者を思いやる気持ちを涵養する。	A									
		養護教諭、SSW、SC及び保護者との連携を密にし、生徒一人ひとりの情報を共有し、課題の解決を図る。	A									
	進路を意識した授業規律の確立	教科担当者と担任が情報交換を密にし、粘り強く指導しながら課題の提出を徹底する。	A	A	課題の提出等、各教科で指導をしているがなかなか改善しないので、粘り強く指導していく。担任教科担当官では密に連携をとることができている。朝のHRでChromebookを活用することができた。連絡事項のほか、学年のニュースや情報を共有し、また課題の投げかけて学校生活を見直すきっかけを作ることができたので、今後も継続したい。	A	各教科の中で表現力の育成を図るとともに、学年集會や学年通信の中で表現の場を設けることができた。また折に触れ短歌指導を行った。成績不審者への指導に加え、進研模試、英検受験者に対する特講を実施し、学力の向上に努めた。次年度も模試、検定対策を充実させたい。生徒が主体的に活動する場の設定に努め、学年集會の運営や意見発表、学年レクの企画運営を行い、生徒はよく頑張っておりリーダーシップを養うことができた。今後も継続したい。					
		友達・クラス・学年間で情報を共有しながら、協働し授業に臨む姿勢を養う。	A									
		学習環境を整える。終礼後は机の上に物を置かない。	B									
	基礎学力の充実及び思考・判断・表現できる生徒の育成	様々な物事を主体的に思考する姿勢を身に付けさせ、物事を論理的に表現する機会を設ける。	A	A	各教科の中で表現力の育成を図るとともに、学年集會や学年通信の中で表現の場を設けることができた。また折に触れ短歌指導を行った。成績不審者への指導に加え、進研模試、英検受験者に対する特講を実施し、学力の向上に努めた。次年度も模試、検定対策を充実させたい。生徒が主体的に活動する場の設定に努め、学年集會の運営や意見発表、学年レクの企画運営を行い、生徒はよく頑張っておりリーダーシップを養うことができた。今後も継続したい。	A	各教科の中で表現力の育成を図るとともに、学年集會や学年通信の中で表現の場を設けることができた。また折に触れ短歌指導を行った。成績不審者への指導に加え、進研模試、英検受験者に対する特講を実施し、学力の向上に努めた。次年度も模試、検定対策を充実させたい。生徒が主体的に活動する場の設定に努め、学年集會の運営や意見発表、学年レクの企画運営を行い、生徒はよく頑張っておりリーダーシップを養うことができた。今後も継続したい。					
		成績不振者に対する補講等を計画的に実施する。	A									
		人ひとりが持っている個性や能力、適性に合わせて学習方法を支援するため、授業で困っている生徒を学年が把握し、授業担当者と協力しながら、生徒全員がわかる授業を展開する。	A									
学校・地域を意識できる生徒の育成及び進路意識の育成	キャリア教育課との連携を深め、3年間を見通した計画的な進路学習を行うことで、進路意識の向上を図る。	A	A	キャリア教育部と連携し、「未来への一日」「職業別講座」の充実を図ることができ、さらに「進路別HR」や「保護者講演会」を実施することで進路意識の向上に努めた。次年度も計画的に進路別HRや新たに進路別終礼を実施したい。総合的な探究の時間では大川市の道の駅プロジェクトとタイアップし、高校生の視点で地域活性化を考える機会を得ることができ、地域に目を向け、貢献しようとする態度を養うことができた。	A	各教科の中で表現力の育成を図るとともに、学年集會や学年通信の中で表現の場を設けることができた。また折に触れ短歌指導を行った。成績不審者への指導に加え、進研模試、英検受験者に対する特講を実施し、学力の向上に努めた。次年度も模試、検定対策を充実させたい。生徒が主体的に活動する場の設定に努め、学年集會の運営や意見発表、学年レクの企画運営を行い、生徒はよく頑張っておりリーダーシップを養うことができた。今後も継続したい。						
	HR活動や総合的探究の時間を活用し、調査しまとめる能力を育成することでボランティア活動等を通して地域に貢献しようとする態度を育てる。	A										
	進学・就職の推薦規定について理解させ、基本的な生活習慣の確立に繋げるとともに、進路についての意識付けを行い、生徒および保護者にも早い段階から進路意識を持ってもらうよう工夫していく。	A										

2学年	主体性の確立と個々にあった学力の定着	出席を常に意識し、出席率95%以上を維持するように心掛け、安易な遅刻、欠席をしない意識と態度を育てるとともに、手帳を活用し、記録することで、実行に移す自己管理能力を育てる。	B	B	A	欠席・遅刻に関しては、気の緩みから遅刻する生徒も増えていたように思う。担任範囲での指導はしていたが進路等も意識させるために、学年集会での全体指導も必要であったと感じる。来年度は積極的に指導していき、学年全体として規律を徹底していきたい。 スタディサプリは、活用の定着は特によくなってきていたが、フィードバックをし、よりよくするための時間を教員・生徒ともにとっていないかったため、リクルートからのアドバイスの時間を確保することが必要であると感じた。
		平素の授業を規律と活気あるものとし、学力の向上に努め、成績不振者に対する個別指導や補講等を計画的に実施する。各学期に考査に向けての目標設定をさせる。	A			
		スタディサプリを活用した個別学習により、基礎学力の定着と希望進路を実現できる能力を育成する。	B			
	規範意識と協調性の確立	頭髮服装規定等の校則が持つ意義を理解させ、身を律する態度に繋げさせる。校則の見直し等についても生徒から呼びかけを行うように指導する。	A	A		
		授業や学校行事で協働活動を取り入れる中で、協調性を涵養する。	A			
		学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活に達成感や充実感を感じることができるようにする。	A			
	ボランティア活動の積極的参加を促し、愛校心を育む。	資格取得を1つでも多く実現できるよう積極的受験を促す。希望制になっている資格取得においては特に呼びかけをしっかりと行う。	A	A		
		模試を積極的受験を勧め、全国的に見た自分の学力を確認し、進路実現に活かす。	B			
		ボランティア活動の積極的参加を促し、愛校心を育む。	A			
	3学年	進路実現のための学力の育成	平素の授業や学習支援アプリを利用し、多岐に渡る生徒の進路に合わせた内容を学び、進路実現ができる力を身につけさせる。	B		
各学科における資格取得を各科で奨励し、より高次の資格取得に向けて授業や補講などで対策を講じる。			A			
外部の模擬試験を指針として、志望する大学入学試験の合格ラインを越えられる学力を身につけさせる。また、入試傾向を捉え、小論文やポートフォリオの指導の充実を図る。			A			
個人面談を適宜行い、生徒の希望と能力を常に把握し、担任会や学年会などを利用するとともに、各教科担当にも協力を仰ぎ、情報交換を密にすることで、より個々に対応した指導助言を行う。			A			
生涯を自立して生きるための自己教育力の育成		出席率95%を維持し、計画的に学習や行事に取り組めるように促し、自己調整能力を確立させる。	B	A		
		社会人としての在り方を常に意識して、主体的に身だしなみや挨拶等を励行する。	A			
		授業内容や知識を広げるため、日常的にICTを活用するとともに、情報処理能力を養う。	A			
実社会で求められる主体性と協調性の育成		学校行事を中心となって企画・運営し、その都度の目標設定とその実現に向けて全生徒が真摯な態度で取り組み、達成感を味わい協調性を身につけさせる。	A	A		
		地域の行事やボランティア活動などへ参加し、実社会と関わりを持つことで協調性を育成する。	B			
		授業やHR、総合的な探究の時間などで自分の考えをまとめ、積極的に表現する能力を高め、他者の意見に傾聴しようとする態度を育てる。	A			
普通科	生徒の適性に応じた学系の選択	学系選択にあたっては、早期に説明会を開催し、生徒・保護者が希望進路や適性に応じて選択できる期間を保障する。	B	A	A	一年次におけるコース選択の際に、十分な検討ができず、コース変更が多く発生した。進路意識の醸成に力を注ぎたい。また、コース変更を前提としたコース選択のスケジュール管理を行いたい。 普通系と理数系の差異があまりないため、学校として何らかの方針を決めたい。 進学希望者において、学力の向上は大前提とするが、推薦入試やAO型に特化した進路指導(小論文、検定取得、面接指導等)を検討したい。
	学習習慣の確立と基礎学力の定	学年・教科との連携を密にし、生徒の実態を正確に把握し、効果的な取り組みを行う。また、校外模試等を有効に活用し、学習意欲と学力の向上に繋げる。	A			
	早期の進路意識の高揚	個人面談による進路相談や面接指導、作文(小論文)指導等を計画的に実施する。また、総合的な探究の時間やHR活動等を通して、職業観の育成を図る。	A			
	資格取得の奨励	各教科と連携し、学習意欲と学力の向上に繋げるための資格取得を奨励する。また、授業や課外、放課後の学習会等を活用して、検定合格率を上げる。	A			
住環境システム科	専門教科(実習等)を通した「ものづくり実習」の充実	ものづくりへの興味・関心を喚起し、より実践的な実習を行い、ものづくりを通しての人のづくりを目指していく。	A	A	A	本年度も、多くの行事や取り組みがあったが、全体的に良い教育活動ができたと思われる。また、資格取得やコンテスト大会でも全体的に良い結果が出ており、充実した取り組みができていく。 今後も資格取得やものづくりなどの作品製作の充実を図り、より高いレベルの技能・技術を習得させていきたい。地元企業と連携・協力してインターンシップや組子実習、家具製作実習等をより充実させていきたい。また、校種間連携事業等も充実させていきたい。進路実現に向けた取り組みを早い段階からしっかり行っていきたい。
	産学官連携事業の更なる推進と専門性への目的意識を高め、将来の進路選択の一つとする。	産学官連携産業人材育成事業を通して、各専門教科への興味・関心や進路意識を高め、より高い専門意識を持たせる。	A			
	積極的な資格試験の受験と実用的な資格試験の導入を行う。	専門性への目的意識を持たせ、実社会に通用する資格を導入し、より多くの合格者を指す。	A			

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

- ・大川市校種間連携内容(学校行事、特色ある活動、部活動、ボランティア活動等)の改善と推進
- ・社会人としての行動をイメージし、様々な場面で行われる教育活動とおとした自分磨き
- ・ICT教育の効果的な活用(学習支援アプリの有効利用)と推進
- ・キャリア教育を実施し、生徒自ら考え、実現できる力の育成

A	コロナ禍では実施できなかった。修学旅行での自主研修をしていただき、感謝している。今後も、生徒が自ら考え、行動し、達成感を感じられる学校行事を計画してもらい、来年度の進路実現につなげてほしい。
A	本年度も生徒の希望進路実現に対して、細かな指導を行っていただいている。来年度も本年度同様、手厚い指導をお願いしたい。
A	就職の実績は維持されているが、進学、特に文理コースの指導を充実させ、様々な入試形態に対応できる体制を整え、指導をお願いしたい。
A	大川は、木工の町であるので木工関係の工場見学等があってもよいのではないだろうか。 学校で匠の活用してほしい。中高連携なので場合によっては6年間この大川市で学べると思う。その特性を活かした内容を是非行ってほしい。地元にも多くの匠がいるので活用してください。
評価項目以外のものに関する意見	
中高連携につながるよう小学校からの連携になれば、校種間連携の役割も果たせると思うが、地域には、大学もあるのでも小・中・高・大と連携をできるシステム作りをお願いしたい。	